

20260525_【閑話休題】進路学習が始まる時期に

教室を回っていると、3年生が進路学習をしていました。

修学旅行が目の前ですが、それと同じくらい進路について、選択や決断を迫られるのも、もうすぐです。

生徒のみなさんには、いろいろな人の意見を聞き、いろいろなものや場所に実際に触れてみて、自分の意思で進路を選択してほしいと思います。

進路学習になると、いつも思い出すことがいくつもあります。私自身、進路選択やその後に苦い経験をしていたりしますので、どこかで参考までに話ができればよいなと思います。

今回は、私が出会ったある人の話を紹介します。少しでも、進路を考える姿勢の参考になればよいのですが。

この仕事についたころ、春になると、よく吉野の桜を見ながらの食事会に行っていました。学生時代にお世話になった方が、「いろいろな人が来るから面白いよ」と誘ってくれたのですが、実際行ってみると、年齢も仕事もさまざまな人がたくさん集まっていて、それは楽しい宴でした。

ある年の食事会で、「木地師」の方と隣り合わせになりました。実際にその仕事をしている人に会うのは初めてだったので、いろいろ話を聞いたのですが、大部分は思い出せません。

ただ、私が「中学校の教員をしている。」と言うと、「先生、どこかで話す機会があれば、こんな話もしてほしい。」と言って、ご自身が木地師になるまでの話を聞かせてくれました。

いろいろ思うところがあつたりしますが、全校生徒のみなさんに話す機会はなかなかありません。

中学時代に、その美しさに衝撃を受けて、卒業後は絶対に木地師になると思ったこと。

でも、親や先生に反対されて、高校に進んだこと。

高校を卒業して、晴れて木地師の方への弟子入りができたこと。

そして、「でもね、先生」とのその方は言葉をつづけました。「自分にとって高校の3年間は、何だったんだろうと思うことがある。」と。

なぜ?という顔をしていたのでしょ、続けて「いくら頑張っても、自分より3年前に入った職人の域にはたどり着けないんですよ。見た目は一緒でも、職人の目で見ると違うんです。同じ年齢なのに、先を行っていて追いつけないのが悔しいんです。」とおっしゃいました。

「将来、自分は本当に何がしたいのか、考えるのに早いとか遅いことはないですよ。そこを大事にしないと、自分みたいいつまでたっても後悔してしまいます。ぜひ、中学生に進路は将来を見据えて選ぶということを伝えてください。」

この話だけは、はっきりと残っています。

ぜひ、遠くて近い将来を見据えて、進路を選択してほしいと思います。